

ぶらりまち紀行



～地域の輝き～
阿南の加茂谷鯉まつり（加茂谷）

足かけ23年、鯉まつりは名実ともに加茂谷のシンボルとなった。子どもたちの健やかな成長と地域の発展を願い、つるした鯉のぼりは数知れず。ふるさとをもっと元気にしたい。仕掛け人たちの情熱は今も昔も変わらない。



東北に届け！井浦夫妻のアフリカ太鼓



加茂谷体協のアイスクリーム屋さん



地上10mの世界へ案内する実行委員



お話ひろばのマイこいのぼり作り



看板を設置する老人会の皆さん

昭和62年、当時の加茂谷体協の井戸端会議から始まった阿南の加茂谷鯉まつりは、今年で23回を数えました。四国一とも呼ばれた鯉の川渡しは圧巻で、毎年3千人を超す親子連れでにぎわいます。イベント内容も年を重ねることに充実し、7年前からは中学生も参加しています。昭和30年に加茂谷で最初に築造された中央橋を背に、晴れやかなハッピー姿で出迎えてくれたのが地元漁師さん。鮎漁で培った操舵の技でカンドリ舟を滑らせます。カンドリとは、かじとりを意味する「楢取」に由来し、那賀川を挟むように集落が広がる加茂谷では、かつて、船渡しとして交通手段に用いられていました。楠根町から細野町までの5カ所で行われていた渡船のうち、鯉まつりの会場となっている深瀬町もその1つ。船頭が漕ぐ櫂のきしむ音が、人々の暮らしと深く関わり続けてきた那賀川の営みを今に伝えます。



加茂谷中特製「たごせん」はいかが



小鯉を飾る深瀬地区手芸クラブの皆さん



おいしいうどんごちそうさま
加茂谷婦人会の皆さん



J A 女性部主婦グループによる餅つき



J A あなんチンゲン菜部会による射的